

新見美術館開館35周年を迎えるにあたり、「西田俊英-不死鳥 Shunei Nishida-Phoenix」を開催します。

現代日本画壇を牽引する西田俊英は、令和4(2022)年から約1年間を屋久島に暮らし、現地での取材の成果をもとに、人間と自然との共生、生命の循環をテーマとした巨大日本画《不死鳥》の制作に励んでいます。

屋久島は豊かな自然のイメージとは裏腹に、近世以降、森林資源の活用と保全の葛藤にさらされてきました。その屋久島が経てきた長い年月について、西田は一滴の水から語り始め、苔むした岩肌や満天の星空、伐採の音が響く日々と、一統きの画面のなかで俯瞰的に見せてくれます。

色鮮やかな不死鳥が導く人間と自然との終わりのない物語は、完成すれば縦2.05メートル、横約100メートルという前人未達の日本画になる予定です。現在も制作が続けられている《不死鳥》の令和7(2025)年現在の姿を、西日本唯一の会場となる新見美術館でご覧ください。

関連事業

■ 西田俊英記念講演会「不死鳥を描く」

日時/10月4日[土] 10:00~11:00

参加費 聴講無料【要観覧料】 要予約 申込先着70人

■ 西田俊英ミュージアムトーク

日時/11月2日[日]

11:00~・14:00~(いずれも45分程度)

参加費 聴講無料【要観覧料】 要予約 申込先着70人

■ 西田俊英サイン会

日時/10月4日[土] 11:00~11:30

対象 書籍購入の方【要観覧料】 予約不要

■ 学芸員によるギャラリートーク

日時/10月25日[土]・11月16日[日]

11:00~・14:00~(いずれも30分程度)

参加費 聴講無料【要観覧料】 申込不要

にしだしゅんえい
西田俊英



1953年三重県伊勢市生まれ。中学から油絵を学んで春陽会に入選、その才能を認められていたが、高校卒業後にヨーロッパ旅行で西洋絵画に触れて転向を決意、帰国後、武蔵野美術大学日本画学科に入学。在学中に再興展に初入選し、1993年のインド留学(文化庁在外研修員)を経て《ブシュカールの老人》で日本美術院賞・足立美術館賞を受賞。《寂光》で天心記念茨城賞を受賞し、1998年には日本美術院同人に推挙される。2002年文部科学大臣賞受賞、2005年内閣総理大臣賞受賞。2017年、屋久島に取材した《森の住人》で日本藝術院賞を授賞、同年日本藝術院会員となる。現在は日本美術院の業務執行理事を務めるとともに、武蔵野美術大学、広島市立大学の名誉教授でもある。本展出品の《不死鳥》は、現在も度々屋久島を訪れながら描き続けられていて、新見美術館では最新の51.60メートルまでを展示する。



西田俊英《不死鳥》部分 個人蔵



新見の木づかいと木育の会 コノハート
木の葉art 5周年記念祭

～みんなの森へようこそ～

日時 10月5日[日] 10:00~15:00 場所 市民ギャラリーと中庭

「新見の木づかいと木育の会 木の葉art(コノハート)」は、森林資源豊かな岡山県新見市で、木に触れ、木でものをつくり、木に親しむことで「木」の良さを感じ、森や自然を大切に思う心を育む木育活動をしているグループです。木の葉art 5周年記念祭では、みんなの森をテーマとしたあそび・体験がもりだくさん。木の魅力を体感しながらお楽しみください。